

**事後評価報告書**  
(日本-台湾研究交流)

**1. 研究課題名:**

「ブレイン・マシン・インターフェースを用いたバイオフィードバックリハビリテーションロボットシステムの開発」

**2. 研究代表者名:**

日本側: 早稲田大学 名誉教授、早田大学 次世代ロボット研究機構 顧問 藤江 正克

相手側: 国立台北科技大学 機械工程系 副教授 劉 益宏 ※採択時は中原大学 機械工学系 准教授

**3. 総合評価: B**

**4. 事後評価結果**

**(1)研究成果の評価について**

本共同研究の大きな目的である日本側が有する骨盤動作アシストを実現するリハビリロボットと台湾側が有するブレイン・マシン・インターフェースの技術を融合させたバイオフィードバックリハビリロボットシステムを開発した点、そして被験者も用いた測定・評価を実施した点ではおおむね評価できる。

これらの実施結果を世界に向けて公表して、きちんと関連研究者からの評価を受けてこそ、この研究が実社会での活かされた成果になると考えられる。しかし本共同研究では、学会での共同発表以外に共著の論文発表や出願が期間内で一つもない。また、共著以外でも日本側、相手側も関連する論文が期間内でほとんど出ていないため、成果発信を加速するよう今後に期待したい。

**(2)交流活動の評価について**

5度のワークショップやシンポジウムを行っており、回数だけではなく、結果としても、両者の技術の融合による成果が出ていると判断できる。また、代表者から実務者レベルまで、実質的な共同研究を字視しており、高く評価できる。今後も双方の大学、企業が共同研究に取り組み、交流が継続されることを期待する。

**(3)その他**

開発した成果は公表が十分されてない段階で、その応用は担当研究機関にまだ限定している状況と捉えられる。実際に病院や医療機器メーカーとの協議の段階によっては総合評価に加味できると考えられる。